

## 地域の食材を活用する食育プログラムをスタート 第一弾は白老牛を使用したメニューを提供

北海道で13の保育園・幼稚園・認定こども園を運営する浅利教育学園グループ（理事長: 浅利健自 / 札幌市）は、全園を対象に、地元食材を活用した給食を提供する食育プログラムを実施します。

地元の食材を使った給食を提供することで、子どもたちが地域に関心を持ち、より食に興味を持てるようになってほしいとの思いから実施を決定しました。子どもたちにとって、食材がどのように作られるのか学ぶきっかけとなるだけでなく、保護者にとっても自園給食と食への理解を深めていただくことに繋がり、ご家庭での対話が増えることを期待しています。

第一弾は、浅利教育学園グループの発祥の地である白老町の白老牛。初代理事長である浅利義市氏がその始まりにも深く関わっています。自園の栄養士がメニューを独自開発し、自園にて調理、一番美味しい状態で提供することにこだわっています。白老牛は、法人給食の食材仕入れでお世話になっている「スーパーくまがい」より提供いただきます。

この取り組み以外にも、園の畑での野菜の収穫、パン教室開催による食育などを展開するほか、職員の海外研修や出向を通し、世界の食の文化・食育についても学びながら、子どもたちが食に興味を持ち「生きる力」を身につけていけるよう、さまざまな食育プログラムを企画していきます。



実施日程：2024年7月18日（木）（9園）

（北郷あゆみ幼稚園、厚別さくら木保育園、太平あずさ保育園、白老さくら幼稚園、白老小鳩保育園、苦小牧もも花幼稚園、苦小牧すみれ保育園、苦小牧みらい保育園、苦小牧なの花保育園）

2024年7月23日（火）（4園）

（宮の森メープル保育園、西町さつき保育園、千歳春日保育園、千歳春日保育園ポケット）

実施食数：浅利教育学園グループ13園

園児996食 職員246食 計1,242食

提供メニュー：白老牛カレー

## 一 白老牛の歴史について

白老町は有珠系粗粒火山れきの土壌や、低温などにより畑作農業には適さない地域であったため、気象条件が類似する島根県山間部で黒毛和種肉牛の生産が盛んであることに着目しました。

初代理事長 浅利義市が白老町長を務めていた昭和26年頃、子牛を無償で農家に貸し付けて育ててもらい雌牛が生まれたら返してもらい「子返し制度」という画期的な制度を創設。昭和29年10月に島根県から北海道では初めて黒毛和種肉牛44頭を導入し、「白老牛」の生産がスタートしました。

## 一 浅利教育学園グループの給食について

～健やかな体と心のための完全給食～

栄養士が園内の調理室で手作りした給食・おやつを毎日提供しています。温かくて栄養バランスのよい給食でイキイキと生きていく力を食の面からもサポートしています。

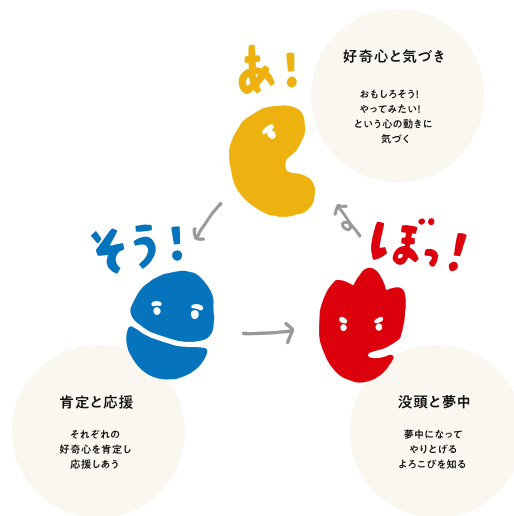
- ・栄養士が作った栄養バランスのとれた献立
- ・自園調理で温かく安心、安全な完全給食の提供
- ・美味しさはもちろんの事、個々に合わせ離乳食やアレルギー、誤嚥防止にも配慮した献立。
- ・法人の栄養士が考案した新メニューも採用し工夫を凝らした独自の献立。

### 浅利教育学園グループ

当グループは、1969年に創設した学校法人北海道日本大学高等学校（現学校法人札幌日本大学学園）の附属幼稚園を母体としており、学校法人浅利教育学園・社会福祉法人明日萌・学校法人自由創造学園の3法人による連合体です。道央圏を中心に各自治体からの保育園民営化案件の受諾や待機児童解消プログラムに基づく新設案件などにより2024年時点でグループで13カ所の認定こども園、幼稚園、保育園を統括しています（園児数約1100名 スタッフ数約300名）。

当グループでは教育方針「あ！そう！ぼっ！」に基づき、主体的で感性豊かな子どもの育成をビジョンとし、しなやかにたくましく「新しい生きる力」を備えた人間を社会に送り出すことをミッションとしています。

公式HP：<https://www.nissho-asumoe.com/>



### — このリリースについての問い合わせ —

浅利教育学園グループ

広報担当: 丸山・森下

電話番号:011-876-6200

メール: r.maruyama@asari-asumoe.ed.jp